

## おわりに

日建連・電力工事委員会では、電力土木施設建設に関わる様々な技術的課題をテーマに、調査研究活動の成果を報告書としてまとめ、定期的に発信・展開してまいりました。

近年、建設施工の生産性向上、品質確保、安全性向上、熟練労働者不足への対応など、建設分野が直面している諸課題に対応すべく、ICT（情報通信技術）を活用した新たな「情報化施工」への取り組みが活発化しています。その流れは、CIMを活用した設計・施工および維持管理や、本年から本格的な活用が開始されたICT土工を始めとする「i-Construction」の推進へと、急速な広がりをみせております。電力土木の分野でも、従来からのダム・貯水池や地下発電所空洞での情報化施工をはじめとして、さまざまな施設建設や維持管理において、ICTの利活用や技術開発の取り組みが加速しています。

こうした背景を踏まえ、当委員会では「電力土木における情報化施工・ICT活用」に関連する建設工事事例や個別技術情報を調査・整理するとともに、一般社団法人電力土木技術協会のご協力のもと、水力・火力土木施設の維持管理に関わる電力各社の土木技術者の方々のヒアリング・意見交換など、幅広く調査研究活動を進め、その成果を本報告書としてまとめました。各章では、電力土木施設建設の各分野別にICT技術の展開案も提示し、施工管理全般や災害復旧・危険箇所でのICT活用といった特殊な分野についても関連する技術として取り上げました。また、電力施設の保守・点検など維持管理の実態調査や意見交換での課題とCIM活用による効率化の事例紹介、最後に今後の関連技術への展望についても記載しております。

掲載した事例は、原則として文献や関係各社のホームページなどで公開されたものや、電力各社のご了解を得られた実施例で、なるべく最近のものを中心にしましたが、技術革新のスピードは目覚ましいものがあり、すべてが最新のものではありません。しかしながら、今後の電力土木施設の建設や維持管理に携わる土木技術者の方々に少しでも参考になれば幸いです。

なお本書発刊に当たり、施工事例掲載のご了承や水力・火力の保守勉強会への参加にご協力いただきました電力各社や電力土木技術協会関係者の皆様に深く感謝申し上げます。また、CIM試行現場として見学をさせていただいた国土交通省近畿地方整備局琵琶湖河川事務所をはじめとする天ヶ瀬ダム再開発工事の現場関係者の皆様には、ここに改めて感謝申し上げます。最後に、事例調査から本書の取りまとめと執筆・編集作業に当たられた技術部会ワーキンググループ委員の皆様には心から厚く感謝申し上げます。

平成29年3月

一般社団法人 日本建設業連合会  
電力工事委員会 技術部会  
部会長 杉本 幸司